

おはようございます。まず、野球部の皆さんご苦労様でした。そして、野球応援してくれた生徒の皆さん、お疲れ様でした。雨で二度中断となる中、残念な結果に終わりましたが、全校生徒で力強く応援し、自分は野村高校の一員なのだという連帯感を味わうことができたことは、本当に素晴らしいことです。応援のリーダーを始め、吹奏楽部の皆さん、生徒会、家庭クラブの皆さんに改めて感謝したいと思います。ありがとうございました。

さて、今日で第1学期が終わります。1学期もたくさんの行事ありましたが、その中で私が特に心に残っているのは、県総体での皆さんの最後まで諦めない頑張りと、かわいい動物に癒された中庭動物ふれあいの体験でしょうか。皆さんは、どんなことが心に残っていますか。

ところで、生徒の皆さんは、小田凱人（ときと）という車いすテニスの選手を知っているでしょうか。現在、17歳で皆さんと同じ高校生なのですが、6月にテニスの全仏オープン車いすの部、男子シングルスで初優勝をしました。決勝で、世界ランキング1位のイギリスの選手をストレートで破り、四大大会を初めて制した彼は、9歳の時に骨肉腫を発症し車いす生活となりましたが、テレビで車いすテニス界のレジェンド国枝慎吾選手の試合を見て、車いすテニス選手になることを決意したといいます。彼は、全仏オープンの優勝インタビューで、「骨肉腫という病気は乗り越えるべき壁ではなかった。骨肉腫という病気があったからこそ、車いすテニスができているし、今の注目度がある、病気は立ちふさがる壁ではなく、人生の分岐点という感覚だ」と語っています。私は彼のこの言葉から、次の三つのことを学びました。

ひとつは、「前向きな気持ち」を持つことの大切さです。普通の人なら、病気で車いす生活になっただけで落ち込むはずなのに、彼は、「車いす生活」という状況でチャレンジできる次の目標を見つける「前向きな気持ち」を持っていたのです。私達は、病気に限らず、日頃から思い通りにいかないことがあったり、失敗をしてしまったりすると、自分を被害者にしてマイナスの気持ちで過ごしがちです。でも、そんな時には、小田選手のように「前向きな気持ち」を奮い立たせて、今の自分が次に何をすればいいのか、どうすれば問題が解決するのかを考えられる人間になりたいものです。

次に感じたのは、「感謝」の気持ちです。彼は「骨肉腫」という病気になったことを残念に思うのではなく、「骨肉腫になったからこそ、車いすテニスができ、こんなに注目されている」と感謝の気持ちを持って、病気を捉え直しています。こういう感覚を持つことは、すぐにできることではないかも知れませんが、自分が何らかの成功を収めた時に、それを自分以外の物事や周りの人達のお陰だと捉える「感謝」の気持ちは、とても大切なものだと思います。

三つめは、「客観的な状況分析」です。彼が、骨肉腫という病気を「人生の分岐点」と表現したことは、非常に興味深いことでした。お年寄りになってから、自分の人生を振り返って「ここが分岐点」ということはあると思いますが、小学生の頃の出来事が人生の分岐点だったと言える高校生はそうはいないと思います。このように感情に流されない客観的な状況分析が日頃からできるようになると、私たちは無駄に悩んだり、あせったりせず、自分のやるべきことを発見できるようになるはずです。

今私が言った「前向きな気持ち」、「感謝」、「客観的な状況分析」の三つは、皆さんが勉強をする場合でも、部活動をする場合でも強く意識してほしい大切な言葉です。小田選手は3日前に行われたウインブルドン選手権でも優勝して、しかも優勝後のスピーチで流暢な英語を披露していたのです。その彼の態度や表情には、世界で戦う覚悟がありありと現れていました。これからの小田選手の活躍を見守るとともに、ぜひ彼の発言にも注目してみてください。

では、2学期の始業式で、笑顔いっぱいの元気な皆さんに出会えることを期待して、私の式辞とします。